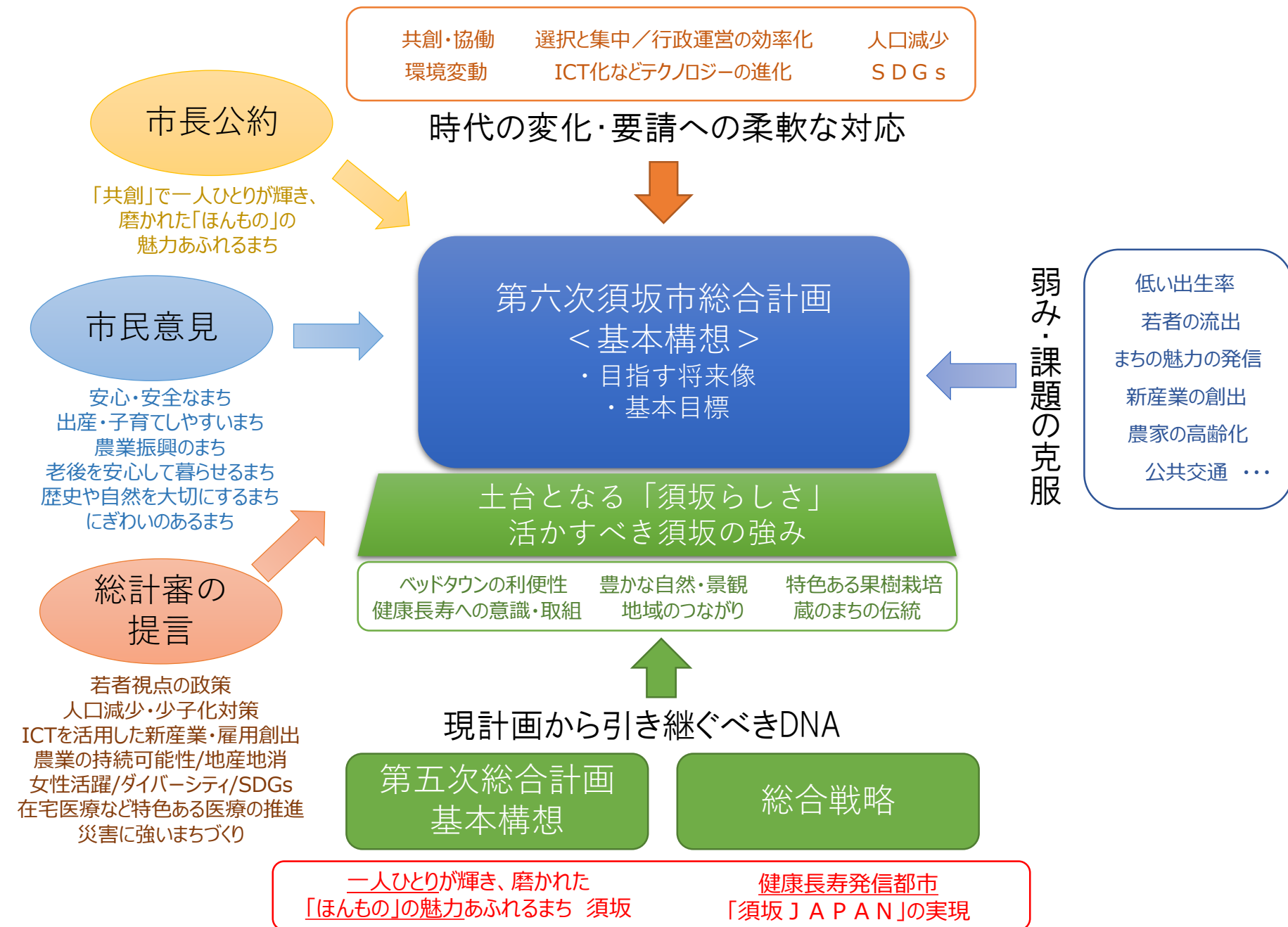




新たなビジョン策定のための筋書き

須坂のこれまで

伝統や自然に恵まれた素朴な暮らしと、都市に隣接した便利で快適な暮らしを両立できるベッドタウンとして発展してきました。

また、地域のつながりが強く保たれ、一人一人の健康づくりの意識や活発な地域活動が健康長寿の伝統を支え、アクティブなシニアが活躍しています。



ほんもの 健康長寿 果樹栽培

便利な田舎生活 地域の絆

いまの課題

しかし、少子高齢化による人口減少が長野地域全体で進むなか、ベッドタウンとしての発展も陰りを見せています。

少子化が進展し、出生率は県内でも最低の水準となっているほか、進学・就職で若者は市外へ流出しています。新たな人を集められる強い産業や観光資源がなく、市街地は空洞化が進んでいます。

農家の高齢化により、果樹王国・須坂の果樹栽培も規模が縮小しつつあります。

少子高齢化を背景に、税収の伸びが期待できない一方、医療等にかかる社会保障費は増加し続け、須坂市の財政は硬直化が進んでいます。

限りある行政資源を集中的かつ効率的に投入し、市民の力も借りながら、いかに持続的な行政運営を行っていくかが問われています。

少子化

若者流出

市街地空洞化

担い手不足

財政硬直化



未来の変化とチャンス

時代はこれからも大きく変化していきます。少子高齢化はさらに進み、人口の少ない地方都市として、どのようにまちを維持していくかは大命題です。

一方、ICT化が進展し、人々の生活意識や働き方が大きく変わるため、地方暮らしを選択する人が増えるといわれています。第4次産業革命が進みつつあり、須坂の果樹栽培もスマート化により人手不足を克服できるかもしれません。

子どもが少ない分、子育て・教育にかかるコストが増え、ニーズも多様化・高度化していくと考えられます。子育てしやすさ・豊かな教育機会があることは、若い世代に選ばれるまちの必要条件といえます。また子育てしながら女性が活躍できる社会であることも必要不可欠です。

本格的な人生100年時代を迎え、須坂の健康長寿の伝統やノウハウの蓄積は福祉分野だけでなく、ヘルステックなど新産業分野にも応用できる強みとなるはずです。

人口減少社会

ICT化

働き方改革

女性活躍

地方移住

人生100年時代



計画の目的と愛称

◆第六次総合計画＝2030年に向けた未来づくりの羅針盤

変動する時代への対応や課題の克服に“**オール須坂**”で**挑戦**する意味を含め、
「**みんなの須坂みらいチャレンジ2030**」(案)を計画の愛称とします。

目指す将来像

(表現例)

「ほんもの」を受け継ぎ、しあわせを実感できる未来共創都市 須坂

～しあわせの原点であり、健やかな暮らしを支える地域の宝を守り、未来につなげます～

<盛り込むべき要素>

- 「**ほんもの**」「**地域の宝**」＝長い年月をかけて守られてきた暮らしの知恵や美しい自然・文化、豊かな食と農の伝統を須坂のDNAとして未来へ受け継ぎます。
- 「**しあわせを実感**」＝山積する課題を乗り越え、誰もが「しあわせ」と言える未来を実現することを目指します。
- 「**未来共創都市**」＝未来を実現する主役は私たち一人一人。人・地域のつながりを活かして、未来づくりに挑戦します。

(その他の表現例)

「ほんもの」を受け継ぎ、新しい未来をともにデザインするまち 須坂

「ほんもの」を受け継ぎ、笑顔あふれる未来のために共創するまち 須坂

3つのチャレンジ指針（分野共通のまちづくりの方向性）

革新

ICTなど新しい技術を取り入れ、暮らしや産業を進化させる

継承

地域の歴史・文化や健康長寿の取組の伝統を受け継ぐしくみと人をつくる

学びと共創

一人一人が自分事として日々学びあい、地域や周囲の人々のために行動をおこす

基本目標（分野別目標）



施策分野	基本目標	次の10年に目指すことの意味 (強みを活かし、時代変化や課題にチャレンジ)
① 人権	誰もが等しく 幸せになるまち	➢ SDGsの理念「誰一人取り残さない」への共鳴 ➢ 新たな時代の基本的人権（貧困、ジェンダー、ダイバーシティ、インクルーシブなど）を見つめ直し、平等な機会を保障する
② 子育て・教育	子ども・若者が育ち、 活躍するまち	➢ 若い世代の声に耳を傾け、若者が暮らしたいと感じるまちの機能を一つ一つ実装する ➢ 低水準の出生率の改善につながる子育て支援策にチャレンジする ➢ 成果が出ている「須坂移住モデル」を活用し、子育て世帯を重点的に誘致する
③ 福祉・医療	いきいきと年を 重ねられるまち	➢ 市民主導の健康文化を発展させ、人生100年時代にふさわしい先進モデルとなる ➢ 「須坂JAPAN」の核となる健康長寿のノウハウを究め、磨き、市民・国内・世界に発信する
④ 安全・安心	災害に備え、地域が つながるまち	➢ 台風被害の教訓を活かし、気候変動の時代に向けて災害に強いまちをめざす ➢ 安心の基盤となる地域のつながり（地域自治組織のあり方）を環境変化に合わせてリ・デザインする
⑤ 産業	新しい仕事と雇用を 生み出すまち	➢ まちの産業の「個性」をつくる ➢ 果樹栽培を持続可能な稼げる産業にする ➢ 若者の雇用を創り、起業の風土を創る
⑥ まちづくり	都市と田園が連続した 暮らしやすいまち	➢ インター周辺開発による交流人口獲得のチャンスを最大限に活かし、にぎわいを創る ➢ 理想のベッドタウン＝都市に近い田舎の魅力を発信する ➢ 次世代の快適でスムーズな移動を実現する
⑦ 行財政	市民に信頼される 行財政を営むまち	➢ 市民との対話に基づく協働の地方自治 ➢ ICT化時代の効率的な行政運営と人手不足への対応 ➢ 新しいチャレンジに向けた政策的経費の捻出（選択と集中の行政運営）

